

# 令和2年度第2回北海道立函館美術館協議会（書面開催） における意見等

## 1 北海道立函館美術館協議会委員

仲井会長、木村副会長、石岡委員、今村委員、加藤委員、川島委員、小宮委員、武井委員、梨木委員、西本委員、堀田委員、三浦委員

## 2 議 事

### (1) 報告事項

令和2年度事業実施状況について

- ・委員：コロナ禍で様々なところに影響が出た中でも、感染防止対策を講じながら、徐々に事業を再開している。職員の皆様に感謝する。
- ・委員：事業実施状況書の3ページ（年度ごとに展覧会（特別展・常設展・貸館別）の観覧者数を記載）にそれぞれの展覧会種別ごとの開催日数が併記されていれば、実績をより捉えやすくなるのではないかと思う。
- ・委員：新型コロナ禍により「橋本三郎展・鶴川五郎展」と「愛するひと やなせたかしの世界」の開催日数が少なくなった割に観覧者数が多く、「リサ・ラーソン展」では1万人を超えるなど、展覧会に対する期待が大きいことが感じられた。計画していた事業が中止になったのは非常に残念だが、次年度に期待したい。
- ・委員：コロナ禍の状況下で休館等の期間が長く、御苦労が多かったと推察される。
- ・委員：コロナ禍で厳しい事業実施、運営となり、大変な御苦労の連続であったと思う。本年度、積み重ねられた経験と知恵を新年度以降に是非御活用ください。
- ・委員：展覧会やイベントの中止を余儀なくされた中での来館数・対策など、素晴らしかったと思う。「リサ・ラーソン展」はミュージアム・ショップにあったぬいぐるみと写真が撮れる場所があれば、SNSに載せたいと思う人も多かったのではないか（感染対策で無理だったかもしれないが）。
- ・委員：新型コロナウイルスの影響で、どうしても指標値より実績値が小さく、よって評価が低くなってしまっているのは致し方ないところだと思う。
- ・委員：作品収集状況にある「受託作品」とはどのような意味か。
- ・事務局：「受託作品」とは、当館と所有者が、当館への美術作品の寄託に係る美術作品受託契約を締結し、当館が作品の保管を受託したもの。契約上、受託作品は、当館の展示、調査研究等に使用することができるものとなっている。

### (2) 協議事項

ア 令和2年度道立美術館評価（案）について

- ・委員：全体的に厳しめの評価となっている。【基本的運営方針】D活動の基礎となる調査・研究の推進の評価が「D」となっているが、指標・実績がコロナの影響で成果が認められなかったのか。
- ・事務局：コロナ禍における様々な制約など、多少の影響はあったものの、具体的に調査・研究の成果をまとめ、形にするところまで至らなかったため、評価を「D」とした。
- ・委員：このような状況で、目標を達成できない項目が多く、なかなか評価しづらいとは思いますが、可能な限り様々な充実に取り組んだことで、全体としてCの評価が多かったのは良かったと思う。
- ・委員：休館などの期間に普段なかなか時間が取れない研修・調査研究のようなものを自主的にテーマ設定しての学びの機会があっても良かったのではと思う。
- ・委員：さらになる評価向上に向け、取組の前進を期待申し上げる。
- ・委員：観覧者の満足度が高いこと、ホームページやSNSの充実など、好ましく思う。

## イ 令和3年度運営計画（案）について

- ・委員：確認だが、令和3年度新規事業の「美術講演会」と令和2年度実施の「アーティスト・トーク」の違いは何か。
- ・事務局：「アーティスト・トーク」は、アーティスト（作家）が展示室その他の会場において、比較的短時間（長い場合でも30分程度）で、作品に関する事など、様々な話題についてお話しいただくものである。一方、「美術講演会」は、作家に限らず、研究者、学芸員等を講師として招き、講堂において、1時間から1時間30分程度と比較的長時間、テーマを決めて講演いただくものである。
- ・委員：全ての事業が素晴らしい企画なので、コロナ感染拡大防止策を十分に講じて、中止ではなく、実施できるように願っている。
- ・委員：これまで連携・接触のなかった学校や幼稚園・保育園などとの連携推進による認知度アップによる観覧者への誘因を図ってほしい。
- ・委員：美術講座や教育支援、地域との連携に注目している。
- ・委員：展覧会にちなんだ限定グッズ、スイーツは期待度が高い。誰もが知っている「ピカソ」の名前が入る展覧会は分かりやすいピカソイメージ（色合いなど）のスイーツでSNSで拡散されると良いと思う。また、田辺三重松など、強い色彩で目を引くものができるのと彼の認知度も上がるだろう。新撰組とコラボできると歴史好きにも興味を持ってもらえるし、五稜郭タワーとの動線ができるのではないかな。
- ・委員：本年度は保守的な展覧会が多いのが個人的に少し寂しいが、地方美術館としての役割も理解している。魔法の美術館は、以前観たことのあるチームラボの展覧会に似ているものだと思うが、時間的にも内容的にも子どもたちをはじめ、大勢の来場者が予想される。コロナ対策の難しさもあるが、そこはしっかりと取り組むこと。

## (3) その他

### 令和3年度以降の道立美術館評価の見直しについて など

- ・委員：評価実施要綱の第9の評価結果の公表について、容易に入手できる方法でとあるが、どのような方法で閲覧することができるのか。
- ・事務局：評価結果については、北海道教育庁生涯学習推進局文化財・博物館課ホームページの北海道立美術館評価制度のページに掲載して公表されている。
- ・委員：箱館奉行所で初めての小中学生対象の写生展を企画中とのこと（未確定）。道立美術館とのコラボなど無理のない範囲で実現できると面白い。
- ・委員：協議会がオンライン会議だとありがたいと感じる。
- ・委員：新型コロナウイルス感染症の拡大に伴い、計画していた各種事業が中止となったことについて大変理解する。未だ終息の見通しは立っていないが、次年度については感染症対策を講じた上で文化・芸術の分野において連携を図る機会を創出していきたいと考える。
- ・委員：令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止策を行いながら、展覧会等を開催していただき、お礼申し上げます。今後も対策を行いながら開催していただきたいと思う。小中学校との連携も積極的に行っていただきたいと思う。
- ・委員：地域に美術館が存在することの“価値”は計り知れない。そのことにより、積極的な発信に努めていただくことを期待する。
- ・委員：「色もよう心もよう」は色彩心理についても触れていて、楽しめた。「〇〇色の写真スポット」のようなものがあると、それに合わせて〇〇色を着て行こうなど、家にいる時から美術館を楽しめるのではないかな（フェルメール展で青と黄を着て行った人が多かったように）。デートでも友達同士でも、女性はそういったことを含めて楽しむと思う。
- ・委員：来場者数を大きく伸ばした、森美術館のSNSマーケティング戦略について書かれた「シェアする美術」を読んだ。私立の現代美術館と地方美術館など多くの違いはあるが、参考になる部分もあると思う。紙媒体を極力廃止したもの、あくまでユーザーの立場になってのSNS戦略の大切さを痛感する。この方面では、さらなる戦略が必要になると思う。